

自己評価報告書

令和2年3月

令和元年度	中央区立豊海小学校	自己評価報告書
学校名：中央区立豊海小学校	所在地：東京都中央区豊海町3-1	
校長名：村上隆史		
児童数：792名	学級数：24学級	教員数：44名 職員数：6名
1 重点目標の達成状況及び取組状況 ※回答の数値は、A…よくあてはまる、B…あてはまる の肯定的評価を合わせたものを記載した。 <重点目標1> 基礎的・基本的な学習内容の理解と確かな学力の定着 (1) 児童は基礎的・基本的な学力を身に付け、「わかった」「できた」という達成感を得ることができている。 [教員] 97% [保護者] 94% (2) 児童が学習規律を守って、自らすすんで学習に取り組んでいる。 [教員] 95% [保護者] 90% <重点目標2> 自他の生命を尊重する態度の育成 (1) 学習や生活の場面において、自分とは考えの異なる友達の意見を受け入れ、問題の解決を図っている。 [教員] 100% [保護者] 89% (2) 学級活動や児童会活動、学校行事などの場面では、同級生だけでなく、異年齢の児童とも協力して取り組もうとしている。 [教員] 71% [保護者] 90% <重点目標3> オリンピック・パラリンピック教育を通じた国際感覚の醸成と体力の向上 (1) 外国と日本人との文化や習慣の違いについて理解を深めている。 [教員] 90% [保護者] 82% (2) マイスクールスポーツ(縄跳び・持久走)や運動に児童自ら積極的に取り組もうとしている。 [教員] 96% [保護者] 85%		

2 結果から分かること

重点目標1「基礎的・基本的な学習内容の理解と確かな学力の定着」

肯定・肯定的な評価が9割を超えた。設問(1)「児童は、基礎的・基本的な学力を身に付け、「わかった」「できた」という達成感を得ることができている。」では、保護者アンケートでは約90%、教員アンケートでは、97%で肯定的な回答が得られた。今後も各教科において児童にとって必然性があり、主体的に学ぶことができるよう指導法を改善していく。また、全ての教科の土台となる国語科や習熟に差が出やすい算数科を中心に、休み時間や放課後などに個別指導や補習教室を実施する。また、算数科では3年生以上において習熟別でグループを編成して個々の能力に応じた指導も継続して行っていく。

設問(2)「児童は、学習規律を守って、自らすすんで学習に取り組んでいる。」については、保護者は約90%、教員アンケートでは95%で肯定的な回答が得られた。これは、これから将来の社会で求められるのは、知識だけでも思考力だけでなく知識を活用して自分の頭で考え、解決できる力であるとされる。今までになかったような新しい課題を発見し、解決に向けて行動できるようになるためには、他者と協働的に学ぶことも欠かせない。本校では、自分の考えを積極的に外に発信できることはもちろん、他者の考えと自分の考えを比較・関連付けながら学習に取り組むことができる児童を増やしていかなければならないと考える。新学習指導要領で示された「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業改革に積極的に取り組んでいく。

重点目標 2 「自他の生命を尊重する態度の育成」

設問(1)「児童は、学習や生活場面において、自分とは考えの異なる友達の意見を受け入れ、問題の解決を図ることができている。」については、保護者アンケートでは約90%、教員アンケートでは100%で肯定的な回答が得られた。各教科において行った自分の考えだけでは解決できず、協働的に学ぶ必要のある学習活動や道徳授業地区公開講座、人権標語、国際交流活動などの人権意識を醸成させる活動などが効果的だったと捉えている。今後も児童の実態や発達段階に応じて、生活習慣・文化・性(LGBT)・価値観などの多様性や人権について学ぶ活動を取り入れていく。

設問(2)「児童は、学級活動や児童会活動、学校行事などの場面では、同級生だけでなく、異年齢の児童とも協力して取り組もうとしている。」については、保護者アンケートでは約90%で肯定的な回答が得られた。これと関連して、保護者の自由記述欄に縦割り班活動の復活についての要望が数件あった。教員アンケートでは、71%と肯定的回答が低い結果となった。児童の実態を鑑みて、令和元年度では、全ての学習の土台となる学年・学級のつながりを重視して教育活動を進めた結果、昨年度より異学年の集団による交流活動が縮小したことによるものと考えられる。これらに関しては、本校の規模やオリンピック・パラリンピック教育、プログラミング教育など様々な教育が取り入れられている現状から、縦割り班活動を復活させることは厳しいと判断している。しかしながら、異年齢の交流活動は、子どもたちの社会性を育む上で教育的な効果が高いと考えている。そこで、次年度は、兄弟学級を設定し、特別活動や掃除等で異年齢による交流活動ができないか検討を進める。

重点目標 3 「オリンピック・パラリンピック教育を通じた国際感覚の醸成と体力の向上」

設問(1)「児童は、外国と日本の文化や習慣の違いについて理解を深めることができている。」については、保護者アンケートでは約82%、教員アンケートでは90%が肯定的な回答が得られた。オリンピック・パラリンピック教育の一環で行われた外国の方との交流、また、今年度より始まった児童の有志によるブラジル宣伝隊の活動など、様々な場面で行われた学習活動の成果だと考える。次年度はいよいよオリンピック・パラリンピックが開催される年でもある。この機会を生かして、児童の豊かな国際感覚の醸成を図る。

設問(2)「児童は、マイスクールスポーツ(縄跳び・持久走)や運動に自ら積極的に取り組むことができている。」については、保護者アンケートでは約85%、教員アンケートでは96%が肯定的な回答が得られた。今後は、マイスクールスポーツを縄跳びに絞り休み時間や体育科の準備運動として取り入れていくなど年間を通じて取り組むとともに、体育科の学習では、児童一人一人が達成感や充実感を味わえるよう指導を充実させて、体力の向上を図っていく。

全体の評価について

今年度も、全ての評価項目で肯定・肯定的な評価が8割を超えている。、今後もこの評価に満足することなく、改善してよりよい教育活動を展開していく。

設問(16)「学校はコンピュータや図書室を十分活用している。」については、約14%の方から十分ではないとのご指摘があった。学校のICT環境は充実しているとはいえない。ICT環境の充実を区に働きかけつつ、効果的と思われる学習について積極的にパソコンや図書室を活用していく。

設問(18)「学校は、楽しく英語に慣れ親しむ英語学習を行っている。」については、約13%の方から十分ではないとのご指摘があった。今年度より、第3学年以上の学年において英語専科教員を中心に授業を展開している。自由記述の中に、もっと高度な内容を求める意見もあったが、指導内容については、学習指導要領に基づき、本校では生きて働く英語力を身に付けさせることを目標に、体験的な学習を重視して指導を進める。また、学校で取り組んでいる英語の学習をさまざまな方法を活用し保護者や地域に発信していく。

設問(8)「学校はボランティア活動や清掃活動など様々な奉仕活動を行っている。」については、約11%の方から十分ではないとのご指摘があった。ボランティア活動は他者への思いやりの心や地域への愛情を育む上で重要な学習である。校内でのボランティア活動の場を設けたり、地域清掃を学年毎に日を変えて実施したりするなど、限られた時間の中で効果的な活動はないか検討する。

今年度の保護者アンケートの回収率は約60%であった。昨年度と比べ10%回収率が高くなった。これは、実施時期を早め、回収までの期間に余裕をもたせたり、匿名による提出も選択できるようにしたりする改善の成果だと捉えている。今後も、回収率を高め、より多くの方のご意見を教育活動に生かしていく。